

## HEAD LINE

表

1. 人事を尽くして天命を待つ！
2. 宇宙船“地球号”

裏

3. 次の学年に向けてすべきこと。

編集後記

### Topic1 人事を尽くして天命を待つ！

センター試験まで残り1か月半。ここまで来たら、あとは“気力”と“体力”です。

心身ともに健康でなければ、本番はその能力を思う存分に発揮することはできません。

体調を崩してしまったら仕方がありません、しっかり休んで、できる限り短時間で回復させるために集中するしかありません。でも、それは“体調を崩してしまったら・・・”という話で、体調を崩さないようにすることが重要であることには変わりはありません。

ただ、これまでの疲労はみなさんが実感している以上に蓄積されています。今は、必死に取り組んでいるので、それを感じても気にしてはられない、もしくは感じているゆとりがないということも十分にあり得ます。つまり、“みなさんは、いつ体調を崩してもおかしくない状況”ということなのです。

何としても気力をもとに、体に踏ん張ってもらうしかありません。そのために、以下のことをお勧めします。

- ① 就寝時間、起床時間を決め、一定のリズムを保つ。
- ② 食事に時間を整える。量を制限(食べ過ぎない)する。
- ③ 適度な運動をする。

“忙”という字は“心を亡くす”と書きます。こんな当たり前のことができないくらい切羽詰まったみなさんに先ず、伝えたい。春を迎えに、今は人事を尽くしましょう。

高校1, 2年生のみなさん、これほど当たり前とも思えることができなくなるほど、受験生は大きなプレッシャーを感じるものなのです。残された時間には限りがあることは受験生に限らずとも同じことです。今のうちからしっかり取り組んでおきましょう。

### Topic2 宇宙船“地球号”

最近文理の先生が電気をこまめに消したり、自習室の管理にうるさくなっていませんか？

国連の Greta Thunberg さんのスピーチも話題になりましたが、遡ること7年、2012年の国連「持続可能な開発会議」(通称 リオ+20)の Mujica 大統領の演説を思い出された保護者の方も多いかもかもしれません。

現在、CO<sub>2</sub>やマイクロプラスチックは特に大きな話題(問題)となっています。これらは私たち人間の生活や経済活動から出されるもので、それにより地球環境が大きく変化する今、文理学院でも何かできることはないか、と社を挙げて取り組むことにしました。

それは、子どもを指導する、未来を担う子どもと接する仕事ゆえの責任であると考えます。そういう意識で育った子どもが成長して、また次の世代を育てる。その大切な時期を共に過ごすものとしての使命と考えています。

11月28日には静岡市のHP上において、「SDGs 宣言書」を通じて、今後企業活動の過程で常に、「人を大切にしたい人づくり」と「環境課題の克服」については最重要項目として取り組み続けます。

無駄な電気は使わない。無駄な紙は使わない。できることといえばそれほど多くありませんが、毎日毎日少しずつでもできることをしたいと思いますので、みなさんもぜひ協力をお願いします。

受験生から「今からでも間に合いますか？」とよく聞かれます。「間に合わせるために今から始めよう。」と答えます。人間が聞きます。「今からでも間に合いますか？」地球もそう答えてくれると信じたいものです。信じて取り組むしかありません。

きっと人間が地球上で一番知恵を出せる生物でしょう。その適応能力の高さから、特にこの100年は人間中心に地球に依存してきました。これを人によっては地球を攻撃し続けた、という人もいるくらいです。その責めを何世代も先の地球上のあらゆるものに負わせることはできません。

その責任において取り組みましょう。宇宙船“地球号”の一乗組員として。

## Topic3 次の学年に向けてすべきこと。そして…

～現高校1年生のみなさんへ～

きっと人生の中で最も忙しい8カ月ではなかったかと思います。あっという間。「何を身につけたのか。」と思い返したときに「特に“これ”というものが思い浮かばない。」という感覚の人も多いはずで、ただただ忙しく、目まぐるしかったという感想の人が多いいと思います。ですが、安心して下さい。みなさんは確実に成長しています。指導する側の人間から見ると、高校1年生の期間が学習面においても、精神面においても最も鍛えられ、成長していることがわかります。だからこそ、この反動が「中だるみ」として2年で起こりうる可能性を含んでいるのです。

では、来年度へ向けて何をすべきか？それは、次の2点です。

### ① 絶対に学習のペースを落とさない！

特に、文系理系で分かれたのち、文系の数学のペースは極端に落ちます。これが、学習のペースが落ちる、というか気が緩む大きな要因の一つです。絶対に学習のリズムは崩してはいけません。

### ② 苦手科目の克服は3学期中に！

2年生には話ずらいことですが、苦手科目に手を付ける最後のチャンスといってよい時期です。この時期を逃すと、その後は苦手科目を克服するために時間を割くと、ほかの科目がおろそかになり、その科目が今度は苦手科目となる危険性があるのです。高校生活中の最後のチャンスとってください！

～現高校2年生のみなさんへ～

何かと反省も多く、秋季講座から勉強のスイッチが入った、というか入れ直した人も多いのではないかと思います。新テスト(システムも含め)の状況が二転三転する中で、落ち着かないこともよくわかります。しかし、突然受験システムの方向性が変わっても、それに振り回されるのはうんざりですよね。ですから、“本当の学力”を身につける努力をしましょう。“本当の学力”とは何かというと

### ① 論理的に理解できる。

“〇〇といわれたらこうする、こう解く、という何も考えない暗記に頼る勉強法は通用しない”のが、本来の受験です。極力、論理的に理解することを心がけ、どうしても理解できないことは暗記しておく。これが重要です。

### ② 理解したことを説明できる

これには、高い母語(以下日本語とします)の能力が必要です。適切な表現ができるように日本語の能力を鍛え上げる必要があります。

この能力こそ、本来生きる上での力のもと、あらゆる状況で学ぶ力、学力の源泉です。大人がよく「若いころに勉強しておけばよかった。」と言いますよね。それは、社会に出て、必要に迫られ日本語の能力が向上する過程で“若いころ身につけておけばこれほど苦労はしなかった”または“これほど理解することが重要か、と思い知らされた”のいずれかから湧き上がる後悔です。

これらは、どれほどの能力が自分に備わっているのか分かりにくいものですが、日常では“説明を聞いて分かること”を、同じ説明を聞いて分からない人に説明することができるかどうか、と言い換えられるかもしれません。

～現高校1年生のみなさんへ(再び)～

「この問題は解いたことがあるから解くことができる。」が如何に危険な学習法かわかりますか？今回の大学入試のゴタゴタは、好意的に解釈するならば、「この部分(記憶力のみ)に頼る学習)に対する能力は、将来あまり発揮されるものではない。だからこそ、大学受験の場で、応用力の効く学力を試そう。」としたい学力観をもつ人間の試行錯誤だといえるでしょう。巻き込むものが多すぎて、とても擁護はできませんが…。

大学受験まで残された期間は2年強。鍛え上げるためには、言語能力、日本語の力を飛躍的に向上させてください。母語は人生、心を豊かにしてくれ、そして悩むことを増やします。一方でその悩みを解決するための強力な道具ともなりえるのです。

～みなさんへ～

例えば「幸せとはなにか？」「神が人間を作ったのか、人間が神を作ったのか。そもそも神とは何か？」「他者を理解するとはどういうことか。」こういったことは、思想や信条によって答えが一つには定まりません。そして、これらが理解(もしくは共有)できずに起こりうるものが争い、つまり戦争です。大学受験で出される問題は、所詮、理解可能なものなのです。大学とは「知」そのものです。その「知」の入り口に立つ者として、理解可能なものを理解しない人間は不適格だ、と今後は言われるような気がしてなりません。

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ…

校舎ブログをホームページから、チェックして下さい！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込もうとせず、何時でも、何でも相談して下さい(生徒のみなさんも、保護者様も)。

## 冬期講習生募集！

無料体験授業受付中。お友達を紹介してください。

## 編集後記

郷土愛。静岡には、静岡にしかないハンバーグ屋さんがあります。静岡に貢献したいという社長の考えから、県外へ出店しないそうです。函館にはラッキービエロというハンバーガー屋さんがあり、旅で訪れると必ず行きます。地元の人が笑顔になれる、地元の人を笑顔にしたい、とても素晴らしいと思います。私自身それほど何ができるわけでもないのですが、その思いだけは共有したいな、と思う今日この頃です。【い】